

山の鉱石と同様で、焼けの少ない部分は良質である。

予想鉱量 2.0~3.0×10⁵t (良質部は約10%)

事業主 三雲村山林組合

月産 100t

(4) 百枚谷鑛山

北西へ約25m, 北東へ約30mのアプライト塊状鉱床で、粗粒部分の鉱石は白土状を呈し、石英分少く良質である。

予想鉱量 9×10³t (良質部40%)

事業主 葉加瀬宇三郎

(5) 結言

本地区のアプライト質長石鉱床は大津市内のものに比しさらに量的に大規模で、我國有数と見られ、採掘容易な点も特色である。質的には平津長石に劣る。白水鉱山は最も将来性に富む。

III. 信楽地区

八郎谷鑛山 (神山長石)

甲賀郡信楽町字神山, 信楽駅南東2km, 運搬は馬車に依っている。

鉱床は黒雲母花崗岩を母岩とする少々東西に長い塊状アプライト鉱体で、東西約100m, 南北50m, 地並以上最高30mである。鉱体内には母岩の名残が見られる。鉱体全体に亘り割目に沿い酸化鉄の焼けがあり、純白の部分は殆んどない。分析値は次の通り。(分析者前掲)

SiO ₂	76.54
Al ₂ O ₃	13.89
Fe ₂ O ₃	0.32
MgO	0.07
CaO	0.48
Na ₂ O	3.18
K ₂ O	4.54
Ig. loss	0.99
Total.	100.01

推定鉱量として地並以上を算定すると、4.5×10⁴t

事業主 乾 栄 一

既採量 1.2×10⁴t

月産 150t

なお信楽近傍には甲賀郡小原村, 朝宮村に産する柞原長石と呼ばれる鉱床があり、朝宮, 中垣の2鉱山があるが今回は調査しなかつた。

IV. アプライト質長石に関する意見

我國の長石鉱床としてはペグマタイト, アプライト, サバ及びアルカリに富む陶石等を挙げることが出来るが、ペグマタイト長石は高品位ではあるが量的に乏しく、サバは量的に莫大であるが現在の所、不純分の除去が完全には行われ得ず、陶石類では長石に完全に代替し得るものが少い。アプライトは現在、岐阜縣釜戸の他、本報告に述べた諸鉱床が知られるだけであるが、量的にはペグマタイトとは比較にならない大規模なものが多く、今後長石資源として研究価値の大きいものと考えられる。質的に見て、ペグマタイト長石との大きな相違は次の諸点である。

1. 石英を常に含有する。(従つて不均質となる事がある)

2. カリ, ソーダの比に於てペグマタイトに比して、ソーダが多い。

3. 分析値の Fe₂O₃ は比較的少いが、黒雲母が含まれることがあるので、焼成物に黒斑点の出る恐れがある。

以上の様であるが、1の石英含量は平津長石のように、殆んど含まれないものから30%に達するが、同一鉱床内では甚だしい不均質は認められない。3の黒雲母の点は、良質部では殆んど認められないので鉱体の選択、採掘、選鉱に注意すれば、ある程度避け得るものである。2のソーダに富む点は釉薬などに配合した場合の光沢、色調等に関係すると思われる。以上の点を考慮して今後の試験を進めれば、陶磁器用、ガラス用として充分に使用されるようになり得るものと考えられ、その場合、量の豊富な点と、生産費の僅少で済む点は大きな特徴となるものと思われる。

553. 612+613: 550. 8 (521. 53)

岐阜縣苗木町長石及びカオリン鉱床

安 齋 俊 男

Résumé

Feldspar and Kaoline Deposit near Naegi-machi, Gifu Prefecture.

By

Toshio Ansai

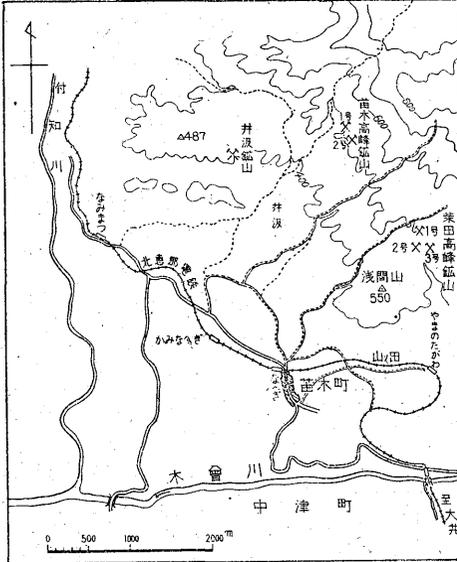
There are many feldspar deposits... aplite and pegmatite... around the area near the north-east of Naegi-machi. They are partly decomposed, becoming kaoline deposits, which are poor in reserves and are low in grade.

昭和23年11月岐阜県苗木町の長石及びカオリン鉱床の概査を行った。次に其の結果を報告する。

I. 井汲鑛山 (林鉱山)

1. 位置及び交通

那岐卓縣惠那郡苗木町井汲。井汲部落北西に位し、北惠電鉄、並に松駅から北東2km、馬車路があり、現場へは更に木櫃路200mを要する。



第1図 苗木町長石カオリン鉱床位置関係図

2. 地質、鑛床

苗木町東方一帯の斜面、丘陵地は黒雲母花崗岩より成り、地表は風化を受けて、いわゆるサバや小規模な珪砂層、蛙目粘土層を生じている。地域内ではアプライト*は花崗岩中に、北西、南東の方向性をもちレンズ状をなして多数存在し、これに伴つて大小のベグマタイトが発達する。

井汲鉱山の鉱床は厚さ約35mの厚いレンズ状アプライト中に発達する極めて長石に富む。不規則塊状のベグマタイトで、大体南北2鉱体に分れている。南鉱体は長石ベグマタイト及びこれを囲むアプライト長石(鉱石となるアプライト)よりなる直径約15mの塊状で既に掘りつくされている。北鉱体は西落しのレンズをなし、坑内で認められる大きさは南北15m、東西は約20mで東側は露天に貫通、西側は深部に連続厚さは7~8mであるが坑内踏前下部は旧坑があつたと云われる。残鉱は西側底部にあつて、アプライト中にベグマタイト長石が直径

* アプライト「長石」は石英長石を主成分とするが、その用途が長石と略々同じであるから鉱石としては長石と呼称される。

7m位の塊状に点在し、鉱石品位別分布はベグマタイト長石5%アプライト長石上鉱20%(1級)同下鉱(2~3級)30%位と見られる。

坑道上方の地表でもサバ状に分解したアプライト中にベグマタイト長石の小塊が点在し、アプライト「長石」の上鉱と共に小さなカオリンの小鉱床をなしているが、採掘價値に乏しい。

3. 鑛石

結晶質ベグマタイト長石は白色ベルト長石で特選級である。

アプライト質「長石」はやゝ粗粒でカリ長石、斜長石、石英及び少量の白雲母より成り、ベグマタイトを囲む部分では長石に富み1級であるが、離れるに従つて黒雲母を伴うに至り鉱石として價値のないアプライトに移化する。

4. 鑛量

坑内西側残鉱 推定鉱量 6×10^4 t

その内訳は、結晶質(特選) 30t

アプライト質(1級) 120t

〃 (2級) 180t

5. 現況其の他

事業主 林 福 雄

月産 20t (昭和23年11月)

II. 苗木高峰鑛山

1. 位置及び交通

井汲鉱山の東方1.5kmの地点にある。並松駅又は上苗木駅より馬車路3km、現場に100mの簡易索道がある。

2. 鑛床

花崗岩中の風化アプライト脈で1号(北)2号(南)が走向N40°W直立で200mをへだて、平行する。1号坑は幅1~2m延長約30m、深さは地表下5m以上。脈は石英に乏しい風化アプライトで母岩と不明瞭に境し、又母岩のハサミが多い。脈中の鉱石分布は風化長石とカオリン(乙女士)とが不規則に入り混り、両者の量は半々位と見られる。2号坑は露頭部から4m~5mを脈に沿い掘り進んだもので脈幅1m母岩と鮮明に境し、風化の度合が低く、カオリンの存在は見られない。

3. 鑛石

1号坑のカオリン部分は殆んど純白の良質カオリンであるが、粉状長石との選別が困難なので、両者を混じて採掘し水簸を行っている。実収率30%、残滓は長石鉱となる。2号坑鉱石はアプライト質長石で石英、正長石、斜長石が夫々1/3づゝ混じた釜戸長石に似た鉱石である。

4. 鑛量

1号坑は約450tの鉱量が推定され中150tがカオリン

である。2号坑は開発初期で鉱量算定に至らない。

5. 現況其他

事業主 ヤマカ製陶所

III. 紫田高峰鑛山

1. 位置及び交通

苗木駅北東3km, 現場まで馬車を通ずる。

2. 鑛床

約50mをへだて3本平行するアプライト脈で走向N30°W, 直立である。1坑は細脈で掘りつくされている。2坑は幅4~5m, 延長50~60mに及ぶアプライト(「長石」として良質でない)の脈の中央部にカオリン化した部分があるが小規模で採掘価値に乏しい。3坑は幅1m, 延長10m以上と見られるアプライト「長石」脈で苗木高峰鑛山の2坑と全く類似している。半露天掘。

3. 鑛石

カオリンは良質のようであるが、殆んど採掘するに値する量が見られない。長石は苗木高峰鑛山のものと同様の風化したアプライト質で石英は少く(20%程度)不純物も少い。

4. 鑛量

第2坑のアプライトはやゝ大きいので下部で良質となれば相当量見込み得る。

5. 現況其他

休山中, 事業主 瀬戸市柴田商店

IV. 結 言

1. 長 石

井汲鑛山の長石はベグマタイト質の良質のものである

が、残鉱が少ない。その他のアプライト質風化「長石」は風化の度合がまちまちで、又不純分の少い所は必ずしも大量のまとまつたものでないで、地方的原料として以上の重要性はない。

2. カオリン

部分的に良質であるが量的には全く期待出来ない。今後詳細な地表探鉱を行えば、いくつかの小鉱体はこれを発見し得るものと見られるが、全国的需要の対象としての事業が成立するものの発見は期待薄であろう。しかし地方的自家用原料として小規模に採掘するのは、意味が充分認められる。

なお、共立窯業原料会社による焼成(SK 13)試験結果は次の通り。

1° 井汲鑛山特選長石(ベグマタイト質)

白色半透明に溶解する。褐色の汚れがあり、大量に揃えば研究価値はある。

2° 同上1号長石 (アプライト質上鉱)

褐色の汚れのある白色半透明に熔融した。

3° 同上風化長石 (アプライト質下鉱)

帯黄白色の不溶物が多数混在する白色に熔融する。黒褐質が多数混在する。

4° 苗木高峰鑛山白土 (カオリン原土)

粘力が劣る、黒色ネズミ色物の混在する灰白色に焼上る。やゝ不均質で呈色は劣るが、精製すればよくなるであろう。

5° 同上排土

粘力が劣る。褐点多数混在する白色、白色熔融物の混在があり、不均質で良好ではない。

553. 574+613: 550. 8 (521. 16)

福島縣口太山白珪石・長石鑛床に就て

安 齋 俊 男

Résumé

On Kuchibuto-yama silica-stone and feldspar deposit in Fukushima prefecture.

By

Toshio Ansai.

The deposits of Kuchibuto-yama, which is located 6 kms south from Kawamata-machi are three lenticular pegmatite in biotite granite. Ore consists mainly of quartz with comparatively small quantity of feldspar.

Both quartz and feldspar are of high grade and their possible reserves are estimated at 3,000 tons.

昭和24年4月13日、福島縣口太山白珪石、長石鑛床を視察する機会があつたので、その結果を発表する。

1. 位置・交通・運搬

福島縣伊達郡大綱木村境木の官有地内にあり、川俣駅の南方約6kmに位する。運搬は山元輕索200m, 木櫃(1回約1/2t)道1.6km, 及びトラック6kmで川俣駅に至る。